

## 私のまち（環境）づくり

「環境」という言葉を辞書で引くと

・人間や生物の周囲にあって、意識や行動の面でそれらと何らかの相互作用を及ぼしあうもの。

また、その外界との状態。自然環境の他に、社会的、文化的な環境もある。

と説明しています。

また、類語辞典には

・まわり【周り】 ( 囲んだ外側)・池・家 - の周り周囲・周辺・四隣・前後 を見る

・くうき【空気】 (1)空気を吸う・大気・(2)和やかな空気になる・雰囲気・気分

・ふんいき【雰囲気】 気配(けはい)・空気・気分・状況・様子・ムード・アトモスフィア

とも説明されています。

最近、「環境に配慮して・・・」や、「環境破壊」等の言葉をよく耳にするけれど、これらのほとんどが“自然”を対象にして論じられていることのように感じられます。

意味が広すぎて感覚的には理解できても、説明は難しい「環境」という言葉。

逆に、どんな言葉とも結びつけることが可能だとも思えます。

私は、一人の生活者の立場からこの言葉の意味を最大限に広げて、まち（環境）づくりについて考えて見ました。

### 自然の多い環境での家庭生活

私は、幼少期を人の多いゴミゴミとした町中で生活してきたせいか、山が有り清らかな川の流れがある、のどかな山村風景（一般的に言う田舎）が大好きです。

北九州市は政令指定都市で有りながら、こうした田舎の残る、自然と都市が上手く融合した珍しい都市では無いかと思えます。

私が住む北九州市小倉南区は、まさに山有り川有り自然有りの3拍子そろった地域だと感じ、一生住みたいと思っている地域です。しかしこうした地域は、他の地域の例に漏れず過疎化・少子高齢化が着実に進んで来ています。

私の住む近くの小学校では、学校の存続を賭け、フレンドリースクール（小規模校特別転入学制度）を実施している小学校があり、少し前までは遠くから生徒も通っていましたが、今ではその数も半分に減ったそうです。なぜなら、民間のバス路線が廃止になり、交通機関に不自由さを感じるようになったからだそうです。近くのタクシー会社の好意で乗合いタクシーが朝夕運行されていますが、今までのバスに比べると運賃も高く、時間や本数も制限が有り利用者にとっては厳しい状況です。

もともとこの地域は人口が少なく、市も初めての試みで2階建てのアパートを建設し、人口増加などに力を入れているようなのですが、公共交通機関がないのがとても不便だと思います。

北九州市には市営バスが運行されていますがそれはほんの一部の地域です。車社会とはいえ子供やお年よりなど他にも車を運転できない人は大勢います。こういった地域にこそ公営のバスが運行すべきで、そうすることにより、フレンドリースクールを希望する子供も増え、過疎化する町の活性化へと繋がるのではないかと思いました。

さらに、近くまで運行しているモノレールとの連携を図り、乗継割引等の施策を行うことにより、さらに便利になりかつモノレールの利用者も増えるのではと思います。

四季を感じる、緑豊かな都市環境

北九州市は、近年「ルネッサンス構想」と題して、重工業都市から環境未来都市への転換（再生）を図ってきました。

- ・紫川下流域周辺の水辺環境の再生として、水環境館や、リバーウォーク
- ・地球環を含めた環境問題に積極的に取り組んだ北九州エコタウン事業。

等の事業が進む中、相変わらず町の中心部には緑が少なく、道も狭くゴミゴミとしたイメージの街に見えるのは私だけでしょうか。

人目を引くお洒落でカラフルな建物にリバーウォークや国際会議場などがありますが、この建物の周りにさえ花や緑が少ないように感じます。

たしかにこれらの周辺は道路整備もかなり進んできており、歩道等は広くなりましたが、なにやら漠然と空間が広がっているような感覚を受けます。確かに、緑（植樹）はありますが、全体の建物の規模と比べるとまだ少ないのだと思います。

私たちが四季を体感できる、“暑さ寒さ”のほか、“色の四季”をこの都市空間に求めることは難しいのでしょうか？

- |   |                              |
|---|------------------------------|
| 春 | 寒い冬を乗り越えた力強さを感じさせる新芽の木々      |
| 夏 | 灼熱の太陽の日差しから私たちを守る鬱蒼とした木々     |
| 秋 | 赤や黄色に色づき、新たな生命を迎えるために散っていく木々 |
| 冬 | 冬の暖かい日差しを遮ることのない葉の落ちた木々      |

仕事や買い物で疲れた時や、何か悩み事がある時に、ふとこうした空間に入り四季を感じることで、失い掛けた時間の感覚を正常に戻し、人間の生活パターンに安らぎを与えることのできる環境は、都市の中心部にだからこそ必要だと、私は思います。

維持や管理が大変だと言うこともよくわかりますが、そうしたことを市民によく理解してもらえる様に努力すれば、市民の協力を得られはずだと私はおもいます。

きれいなまち（環境）

ゴミの分別やリサイクル等によって、環境に与える影響を最小限にする動きが進んでいる中、相変わらず街にはゴミが多いように感じます。

植樹帯や中央分離帯等の“なぜこんな場所に”と思えるような所にゴミが捨ててあり、誰が捨てるのだろうと考えることがあります。家に帰って捨てればいいのかと思うけど、そう思わない人がいるからこそ、そのゴミはあるのだと思います。

では、どうしたらいいのか？ ——▶ “植樹帯や中央分離帯をゴミ箱にすればいい！”

これは極端な話ですが、要するにゴミ箱を増やせばいいと思うのです。

“ポイ捨て”しようとした時、すぐ横にゴミ箱があったらなら、果たして“ポイ捨て”できたでしょうか。私は“ポイ捨て”をしたことが無いので解りませんが、ゴミ箱の横にあえて捨てる人はいないと思います。

スーパーやコンビニエンスストアの店先では、既にゴミ箱の設置がかなり進んでいるようですが、その他のあらゆる企業や商店（商品売る以上はゴミは出ると言った前提に立って）に協力を依頼することも必要では無いでしょうか。特にISO14000シリーズを取得している企業は、当然協力して頂けることだと思っています。

自然が多く、きれいで、憩える、便利なまちに私は住みたいと思います。

以上